

環境科学部 環境政策・計画学科

Department of ENVIRONMENTAL POLICY AND PLANNING

”問題を探せ。
答えを探すな。”



自ら行動すれば答えが見つかります。
将来は国際協力の分野へ。

環境問題に興味を持っていましたが、環境という大きな枠組みの中で最も関心を持つ問題を見つけるため、多様な視点から学ぶことのできるこの学科を選択しました。環境に関する基礎知識はもちろん、学生同士で意見をぶつけ合うディスカッションやフィールドワークなど、県大でしか経験できない授業が多くあります。この学科で学ぶ中、国際協力に興味があることに気づき、将来はその分野で就職できるように勉強を重ねています。この学科は関心のあることを追求できる一方、自ら行動しなければ何も始まりません。しかし、様々な分野のエキスパートである先生方がやる気ある学生を必ず全力でサポートしてくれます。ぜひ県大で、将来に向けた自分だけのルールをつくってみませんか。

環境科学部 環境政策・計画学科 3年生
正木 美帆 さん/滋賀県立八日市高等学校出身

“環境”で鍛えたチカラは、社会のどこでも通用する。

◆アドミッションポリシー

環境政策・計画学科では、環境と調和した社会を形成するために、社会を形成している企業、政府、市民の行動を環境調和型に変革していく人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

求める学生像

- ①人間社会と自然環境の広い範囲にわたって関心を有する人(興味・関心・意欲)
- ②環境政策や環境計画を学ぶ上で必要な国語・数学・英語・理科・地歴公民の基礎学力を有する人(知識・理解)
- ③見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人(思考力・判断力)

◆学びのポイント

身近な地域課題から地球規模の環境問題について、文系と理系の多様な視点から総合的に学ぶことを通して、“幅広い視野で物事の見通しを立てることができる人”を育てる学習プログラムにしています。例えば、1回生から専門知識を学べるほか、教員1名につき学生4人程度の少人数の授業が中心で、丁寧な指導を受けられます。また、3回生以降は研究を進めるための研究室や1人1台のパソコンなど、学習環境を整えています。これらによって4年間で一人一人が考える力や社会で求められるスキルを伸ばすことができます。このようなプログラムを通して、具体的な進路を自分自身で設計することができます。そのため、卒業生の進路は公務員、企業の環境部門、環境コンサルタント、起業家、NPO、政治家、研究者などバラエティーに富んでいます。

◆学びのステップ〈4年間の学習フロー〉



Point 1

文理を問わず幅広い視野から環境に挑みます

環境政策・計画に関わる科目は、文系と理系の幅広い分野にわたります。文理双方の専門知識と方法論を学ぶことで、実社会で求められる総合的な力が身につきます。

Point 2

現場で役立つ実践的スキルを習得します

卒業後、幅広い分野や職種で活躍するためのデータ分析、マネジメント、場のデザイン、コミュニケーション等、現場で役立つ実践的なスキルが身につきます。また、社会調査士やGIS学術士などの資格を取得できる授業もあります。

Point 3

自分自身で課題を設定し、解決策を提案します

現場でのフィールドワークや行政職員・地域住民などへのヒアリング調査を実践することで実社会の課題を把握します。卒業研究では課題を解決するために社会で役立つ新しい知見を提供します。

◆教員スタッフとその専門分野

- | | | | |
|-------------|-----------------------|-------------|-----------------------------|
| ● 井手 慎司 教授 | 水環境管理、土木環境システム、環境影響評価 | ● 林 幸司 准教授 | 環境経済学、環境政策論 |
| ● 香川 雄一 教授 | 人文地理学、環境地理学、都市社会地理学 | ● 村上 一真 准教授 | 開発経済学、環境経済学、行動経済学、地域経済・政策論 |
| ● 金谷 健 教授 | 廃棄物管理論 | ● 和田 有朗 准教授 | 環境政策、環境計画、環境システム、地域システム |
| ● 上河原 献二 教授 | 環境法・環境政策 | ● 白木 裕斗 助教 | エネルギーシステム学、環境システム学 |
| ● 高橋 卓也 教授 | 環境経営、森林政策・計画、資源・環境経済 | ● 平岡 俊一 助教 | 市民参加・協働、NPO/NGO、環境社会学 |
| ● 瀧 健太郎 准教授 | 流域政策・計画学、水工学、応用生態工学 | ● 平山 奈央子 助教 | 湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加、意思決定手法 |



環境科学部
環境政策・計画学科
香川 雄一 教授

環境政策・計画学科 ってこんなところ

人間社会と環境との関係について、文理融合の立場から学びます。本やネットに頼るのではなく、琵琶湖の流域はもちろん、日本各地の集落や街、外国の水辺や集落、街などにじかに足を運び、そこで生活し、働く人々と対話するところから始めます。「答えを探さず、「問題」を探せ—これが、私たちのモットーです。



▲「フィリピンのごみ問題」に正面から立ち向かう(ごみ埋立地にて)

〈専門科目の例〉 講義・実習

環境経済学

環境経済学の基礎理論と、その環境政策への応用および、市場メカニズムと環境問題の発生、環境政策の経済的手法、環境の最適利用について学びます。

環境計画学

環境基本法を始め、国内外の環境計画に関する制度や最新の事例を通じ、社会と環境の調和を計画によって実現していくための手法を学びます。

環境法

環境法の対象としている環境問題、仕組み、形成・実施、見直しの過程について学びます。その範囲は、国の法律、自治体の条例、国際的条約を含みます。

廃棄物管理論

廃棄物を適正に管理するために必要な多方面の知識について講義し、受講者は興味ある課題についてグループ作成・調査し、発表します。

GIS演習

GIS(地理情報システム)は自然環境に関するだけでなく人間社会の空間情報を統合的に扱う技術です。この基本を学び、応用力を身につけます。

環境マネジメント演習

企業の環境マネジメントに必要なとされるスキルの実践に親しみます。主要問題の特定、解決策の提示・システム化のプロセスを体験します。

◆卒業研究

学生自ら探した「問題」をもとに卒業論文のテーマを決め、そのテーマにあった研究室で担当教員の指導を受けながら、さまざまな調査方法で研究を進めていきます。

研究その1 放置自転車対策として 地下に機械式駐輪場をつくりたい!

駅前の放置自転車対策として駐輪場の整備が求められていますが、大都市では駅前の地価が高く、駐輪場の設置は容易ではありません。そこで、先行事例を参考にして、駅前の地下に機械式駐輪場を作るための条件を、分析しました。

こんな調査をしました
東京で地下機械式駐輪場の実態を調査し、GIS(地理情報システム)を用いて、京阪神での設置可能性を検討しました。



◆担当教員
香川 雄一 先生
都市社会地理学の専門家

研究その2 カワト文化が残った要因と 消えた要因を明らかにしたい!

滋賀県高島市新旭町太田地区では、いまだに多くの家が地下水や川の水を「カワト」と呼ばれる洗い場で使用しています。なぜ、カワトが残ったのか、また、一部の家ではつぶされたのか—それぞれの要因を探りました。

こんな調査をしました
同地区の区長さんとともに、現在でもカワトがある家、かつてはあった家を軒一軒回り、カワトの使用状況や使用目的、カワトをつぶした家にはつぶした理由を対面式で聞いてきました。



◆担当教員
井手 慎司 先生
水環境管理の専門家

研究その3 廃食油をリサイクルした燃料はもっと増産できないの? 回収拠点をどこに設置したら回収量が増える?

環境にやさしいリサイクルした燃料。しかし、手間がかかると回収に協力してもらえないし、各家庭に回収にまわるのも費用がかかります。GISという地理情報システムを使って、どこに回収拠点を設置したら、廃食油の回収量が増えるか研究しました。

こんな調査をしました
回収拠点までの距離がどのくらいなら回収に協力するか、住民にアンケート調査を行いました。



◆担当教員
林 宰司 先生
環境経済学の専門家

社会活動の紹介



地域課題に向き合う

滋賀県近江八幡市では高齢化によるヨシ刈りの担い手不足やヨシ産業の衰退などの課題を抱えています。このテーマについて、学生はヨシの利用方法や管理の在り方を分析しました。また、ヨシ群落の管理の一環としてヨシ刈りを体験しました。大切なのは「現場で地域の人と共に汗をかくこと」です。



※詳しくは [\(http://depp-usp.com/\)](http://depp-usp.com/) をご覧ください。

環境問題の専門知識を学ぶ

地域環境政策論

日本における地域環境問題の時代的変遷から、環境政策や計画の成果と課題を問題発生地域の事例に基づいて学びます。



現場で役立つスキルを学ぶ

ファシリテーション技法・演習

目的に応じた「対話の場」を設計・運営するために必要な技術・思考方法・心構えを体得します。



現場を実践的に学ぶ

政策計画演習

社会で起こっている問題の解決策を探るため、データや現場の声を収集し、分析を行います。



◆進路状況(2015~2017年度卒業生)

◆就職先

- 株エイチ・アイ・エス
- 株大垣共立銀行
- 大阪商工信用金庫
- 株関西アーバン銀行
- 株かんでんエンジニアリング
- 株京都銀行
- 京都信用金庫
- JAグリーン近江
- 株滋賀銀行
- 新江州株
- 総合警備保障(株)
- ソフトバンク(株)
- 株ダイフク
- ティップ(株)
- 東建コーポレーション(株)
- TOWA(株)
- 常盤薬品工業(株)
- トヨタ車体(株)
- 長浜信用金庫
- 西日本旅客鉄道(株)
- 日本製薬(株)
- 日本郵便(株)
- 野村證券(株)
- パナソニック(株)
- 株パナホーム滋賀
- 株パローホールディングス
- 株阪急阪神ホテルズ
- JA兵庫六甲
- 富士通(株)
- 株平和堂

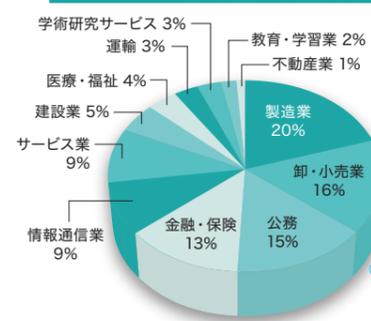
株ベネッセスタイルケア

- 株村田製作所
- 愛知県
- 京都市
- 草津市
- 静岡県
- 吹田市
- 富山市

◆進学先

- 滋賀県立大学大学院
- 京都大学大学院
- 鳥取大学大学院
- 名古屋大学大学院

2015~2017年度卒業生の業種別就職状況



取得可能な資格一覧*

- 教員免許: 高等学校教諭一種(公民)
- 学芸員資格
- 社会調査士資格
- GIS学術士資格
- 自然再生士補資格
- 地域調査士資格
- 社会福祉士主任任用資格

OB & OG Message

2012年度卒業
勤務先: 滋賀県
間野 智也さん

私は滋賀県自然環境保全課鳥獣対策室で、生息数が著しく増加したり生息地の範囲が拡大している鳥獣の管理に関する仕事をしています。滋賀県では、ニホンジカ、ニホンザル、カワウ、イノシシ等の野生鳥獣による被害が深刻化しています。管理計画の策定や計画に基づく施策を実施しながら、人間活動と共に鳥獣が生息系の一員として生息できる豊かなバランスの取れた生態系を取り戻すことを目指し、日々奮闘しています。

私は、環境行政職という職種で入庁しました。学生時代に幅広い分野の授業で得た知識はバックグラウンドとしていきていっています。また、この学科では、先生や学生の前で発表をする機会が多かったり、フィールドワークなど実際に現場へ出て問題を探る、肌で触れる授業が充実しています。公務員の仕事もデスクワークばかりでなく、現場に出ることが多くあります。何が問題で、どのように解決すべきなのかを見つけ考えることは、将来きっと役に立つと思います。入学されたらきっと充実した学生生活が待っていると思います。(2018年1月現在)

CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日



1日のスケジュール

- 8:30 通学
- 9:00 1限: 水環境政策論
- 10:40 2限: 廃棄物管理論
- 12:10 昼休み
- 13:10 3限: 地域調査法演習
- 14:50 4限: レポート課題を実施
- 16:30 5限: 政策計画演習(卒論)
- 18:00 課外活動



水資源管理や琵琶湖の政策について学びます。



地域での調査設計やサンプリングの方法などを実践的に学びます。



テーマを自分自身で決定し、1年半じっくりと卒業研究に取り組みます。



友達と一緒に環境関連のサークルや湖風祭実行委員などの活動を楽しみます。